令和 7 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	岩手高齢協 ほっともとみや （2F）		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	令和7年12月16日	評価結果市町村受理日	令和8年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者様のやりたい事、外食したい、コーヒーを飲みに行きたい思いを実現できるよう職員は支援している。
・利用者様とショッピングモールへ行きそれぞれの欲しい服や小物など買い物をした。
・フードコートで利用者様が食べたいものを選び食べることが出来た。コーヒー好きの方には別なお店でコーヒーを飲んでいただき希望を叶える事で利用者様の満足感を達成出来ている。
・季節の飾り作りでは、きれいを目指すのではなく思い思いの作ること、完成することでとても喜んでもらうことが出来ている。
・町内会の納涼祭でさんさ踊りを踊ったり、好きなものを食べたり、楽しい時間を地域と共に過ごすことが出来ている。
・主治医、訪看、薬剤師、と密に連携を取り利用者様の体調を報告、共有できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

広大な緑地の公園や美術館などの文化施設、ショッピングモールなどの大型店舗、医療機関、福祉・介護事業所が集まる地域に位置し、周辺には児童公園や住宅があり、比較的静かな環境の中にある2ユニットのグループホームである。買い物や散歩に適した環境で、医療・福祉との連携も図りやすい立地である。事業所では、理念として掲げる「笑・輪・話」を大切にし、利用者が毎日を笑顔で過ごせるよう、それぞれの意思を尊重した支援を心がけ、利用者の希望をどのように実現できるかを日々検討し、具体的なケアに反映している。食事面では、利用者の要望を献立に取り入れるとともに、季節感のある食材や彩りを工夫し、見た目も楽しめる食事づくりに取り組んでいる。食事は利用者と職員が同じ席でともにとり、家庭的で温かい時間を共有している。重度化や終末期には、訪問診療医や訪問看護師と密に連携し、家族とともに看取りを行いながら、利用者がその人らしい最期を迎えられるよう支援している。家庭的な環境の中で、無理のない穏やかな時間を過ごせるよう、これまでの経験をもとに日々の実践に努めている事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	今年度は「笑・輪・話」へと理念を変え毎日、笑いのある楽しい生活を目指しました。リビング内に理念と3か月ごとの目標を掲げ共有、実践につなげた。「笑・輪・話」通信は、掲示し、会議資料は回覧している。	今年度より、グループホームの理念を「和・輪・話」から「笑・輪・話」へと改めた。「みんなで笑い、輪になって話す」日常を大切にし、利用者一人ひとりが安心して穏やかに暮らせる環境づくりを目指している。理念の実践に向けて、3ヵ月ごとに活動目標を設定し、日々の支援内容を振り返りながら取り組みを継続している。これにより、利用者が笑顔で過ごし、仲間とのつながりを感じながら楽しく生活できるよう、理念に基づいた支援の充実を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月に1度地域の読み聞かせボランティアに来ていただいている。近所の方への日常の挨拶を交わしている。地域の納涼祭に参加し交流している。	事業所では、地域とのつながりを大切にし、町内会の夏祭りや防災活動（シェイクアウト訓練）、花壇の水遣りなどの地域行事に積極的に参加している。これらの活動を通じて、地域住民にグループホームの存在や取り組みを知ってもらうよう努めている。また、読み聞かせボランティアの受け入れや、事業所の広報紙「笑・輪・話 通信」を地域掲示板に掲示するなど、地域との交流機会を継続的に確保している。こうした取り組みにより地域住民との関係が深まり、認知症や介護に関する相談を受けることもあり、地域の身近な相談先としての役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎月、市のオムツ支給の引き取りを地域の老人福祉センターへ引き取りに行く時には、センターを利用する方々や職員と挨拶を交わしオムツ支給の需要や必要性を理解していただいている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、利用者様の様子報告をして地域の方々と意見交換している。会議の議事録を職員で回覧し、スタッフで話し合いサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、町内会長、民生委員、市担当課職員、利用者家族が参加し、多様な立場から意見を得られる体制を整えている。年間の開催予定を事前に設定し、委員が参加しやすい環境づくりに努めている。会議では、事業所の取り組み状況や利用者の生活の様子を報告し、委員からは地域の動向や感染症対策に関する助言・提案を受け、運営の改善に活かしている。前回の外部評価後に作成した目標達成計画では、利用者の会議参加を進めることを掲げていたが、新型コロナウイルス対応に追われたため、実施には至らなかった。今後の課題として引き続き検討していくこととしている。	運営推進会議では、これまでの議題に加えてヒヤリハット事例も共有できるようになると、委員の皆さんから多様な視点での助言を得られ、より安心して過ごせる場づくりにつながっていくと思われます。こうした情報を丁寧に扱いながら話し合うことで、事業所の取り組みがより見えやすくなり、ケアの質の向上にもつながることが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加していただき、状況の把握をしていただいている。生活福祉課と連携し生活保護受給者へ支援している。要介護認定、区分変更など相談、協力し関係を築けている。	市の担当課職員が運営推進会議に参加しており、会議の場で情報共有や助言・指導を受けている。また、日常的にも電話やメールで相談し、必要に応じて担当課へ直接出向くなど、継続的な連携を図っている。こうした顔の見える関係づくりを通じて、事業所運営における行政との協力体制を大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を活用し、資料を通し共有、日々気づけるよう職員間でケアの確認をしている。委員は率先して研修へ参加して新しい情報を提供し勉強会を開いたりし共有している。玄関の施錠は防犯のため夜間のみ行っている。	事業所では「身体拘束を行わない」方針を掲げ、日々のケアにおいて利用者の尊厳を守る取り組みを進めている。一方で、無意識のうちに制止的な言葉がけが生じる場面もあるため、3ヵ月ごとに身体拘束廃止委員会を開催し、日常のケアを振り返りながら身体拘束と虐待防止の意識向上に努めている。また、言葉遣いの適切さを確認するための職員アンケートの実施や、スピーチロックに気づいた際にその場で声を掛け合う取り組みを行っている。さらに、継続的な勉強会を開催し、職員全体で知識と意識の共有を図ることで、身体拘束をしないケアの実践を強化している。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員を活用し、資料で確認し共有。職員各々が自覚を持ち、職員間で声を掛け合い虐待が無いよう十分に注意を払っている。管理者がスタッフの心のケアやストレスチェックを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を利用している方がおり理解し活用できている。自立支援についても調べ手続きを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明を行い理解を得、意見をいただいている。現状を見てもらい何度も説明、理解、納得の上入居してもらっている。改定時は文書送付、又は、LINEでお知らせし、理解、納得を図っている。看取り時にも、その時に応じた説明をし安心していただいている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃、利用者とのコミュニケーションの中で要望を聞いたり、運営推進会議でも家族からの意見、要望を聞きスタッフで話し合いし反映に努めている。施設内にもご意見箱を設置している。	利用者からの要望については、日常の関わりの中で職員がこまめに聞き取り、生活に反映できるよう努めている。家族に対しては、面会時に職員が同席して意見や要望を伺うほか、管理者が直接話を聞く機会を設けるなど、相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。利用者からは食事内容や外出に関する希望が多く寄せられており、可能な範囲で要望を取り入れ、生活の満足度向上につなげている。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティングや、カンファレンス等で意見を交わしたり、個別に日々必要な時に相談し管理者は反映に向け努めている。	事業所では、ほぼ毎月の全体ミーティングや毎月のカンファレンスを通じて、運営に関する職員の意見を幅広く聞き取る機会を設けている。日常的にも管理者が現場に入り、職員が意見を伝えやすい環境づくりに努めている。また、年1回の職員面談では、目標や達成状況の確認に加えて、運営に関する意見や提案を受け止める場として活用している。職員からは食事に関する提案や勤務シフトに関する意見が多く寄せられており、内容を検討したうえで可能な範囲で運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の体調、体力に応じて、夜勤の有無、労働時間の調整を行い働けるよう職場環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内を提供し参加を促している。研修の方へは優先的にシフト調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修に参加し同業者と交流がもてた。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の様子を見ながら傾聴し、何に困っているのか、不安なのか早く気づけるようにしている。情報の共有を書面やカンファレンスで話し、小さな事も見逃さないようにしている。言葉にできない方にも声掛け、表情など見て信頼関係を築けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に施設を見学していただきご本人ご家族様の要望を聞きとり、不安に耳を傾け信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族様の希望を聞き、今、必要なことを見極めプランに反映させている。往診サービスの提案もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に生活しながら洗濯物たたみや、モップ掛け、パーテーション拭き、カーテン閉めを行いお互いを支え合い本人の励みになるよう関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の様子の写真や動画などLINEで送りとても喜ばれている。職員のほうから、ご家族様との食事会や、ドライブ、、外出など絆を深めていただくためのお誘いをしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族とお墓参りに行ったときなど一緒におやつを食べたりしている。訪問美容師さんに自分のリクエストをしたヘアスタイルにしてもらえている。読み聞かせボランティアの方々や、あい子おばちゃん、お寿司屋さんとは関係が途切れないように努めている。	利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係を継続できるよう、外出時には家族とともに馴染みの店で食事をしたり、お墓参りを行うなど、個々の思いに沿った支援を行っている。過去には、利用者の近隣に住む知人が訪ねてくることもあり、地域との自然なつながりが保たれていた。また、民謡歌手のボランティア「愛子おばちゃん」や馴染みのお寿司屋さんとの関係が続くよう働きかけており、毎年の忘年会には参加してもらうなど、利用者が親しみのある人々と交流できる機会を大切にしている。こうした取り組みは、利用者の安心感や生活の楽しみにつながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	スタッフと共に季節の制作活動に取り組み、苦手な方には、スタッフが、隣に座り、サポートし嫌な思いをさせないようにしている。利用者同志の関係に考慮し、席をかえたり、会話にもスタッフが入りコミュニケーションがとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたご家族様より、「お世話になりました。」などとタオルや、寝具の寄付をいただいた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中や会話の中から希望をくみ取り、その希望を叶えるためにどうしたら良いのか日々相談し可能な限り希望や意向を受け入れている。（ショッピングモールで洋服、小物を購入したり、好きなものを召し上がる）	事業所全体では、言葉で意思を伝えることが難しい利用者が3名おり、職員は日々の関わりの中で表情や仕草、行動の変化を丁寧に観察し、思いや意向の把握に努めている。利用者からは食事に関する希望が多く寄せられており、可能な範囲で希望に沿った対応を行っている。また、意向に沿えなかった場合には、その理由や対応内容を記録し、職員間で共有することで、今後の支援に活かせるよう取り組んでいる。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前に情報をできるだけ多く収集しているが、入居後にご家族へ報告、相談すると、「家でも（前から）そうでした。」と、後々知ることが非常に多いため小さな事でも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前などの情報も収集し、ほっともとみやでの生活のADLなどの状態を日々、スタッフ、ケアマネ間で確認しあいチャートへ記入、申し送りで共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活の中での変化には、すぐに気づく様に心がけ、スタッフ1人の意見ではなく、スタッフそれぞれの意見や視点から課題とケアを見つけ様々なケアを試し主治医、訪看、ご家族の意見も聞き、リスクも考えた上でプランの作成をしている。	介護計画の作成と見直しについては、日々のモニタリングを職員全員で行い、その情報を基に3ヵ月ごとにケアマネジャーを中心としたケアカンファレンスを開催して検討している。職員の観察や気づきを共有し計画に反映することで、利用者の状態に応じた支援の継続を図っている。また、介護度が高くなった場合には、主治医や訪問看護師、家族の意見も取り入れ、多職種の視点を踏まえて介護計画を見直し、適切なケアが継続できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	チャート、申し送りノートへの記入で、情報を共有。スタッフ用のLINEも活用し、情報を共有、実践出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の状態、体調に応じて食事内容、形態を変えたり、器を変えたりしている。急変時には受診の対応も行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問美容師さんには、思い思いの希望に沿ってカットしていただいている。町内会の納涼祭では、一人ひとりがくじを引いたり、好きなものを食べ、さんさ踊りに参加し、とても楽しんでいただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後、重症化となり、ご家族様の負担もあり、かかりつけ医から訪問診療への切り替えの支援を行った。その事により、素早く適切な医療を受ける事もできた。	事業所全体では7名の利用者が従前からのかかりつけ医へ継続して通院しており、家族が同行することを基本としている。家族の同行が難しい場合には職員が付き添い、受診内容や医師からの指示は家族と共有している。通院が困難になった利用者については、訪問診療へ円滑に移行できており、継続して適切な医療を受けられる体制が整っている。また、週1回の訪問看護により、利用者の健康状態を定期的に観察し、必要な支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の定期訪問の他、24時間対応していただいていて、電話で指示を仰いだり、メールで画像を送信しすぐに確認していただき指示をいただいている。主治医へも繋いでいただいている。（画像確認もできる）訪看とは、利用者様の様子を記録する共有の用紙があり、適切に訪看を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の入院先として市立病院との連携体制を整えている。医療関係者との情報、相談にも努め、早期退院を心掛けている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に看取りについても説明し契約を結んでいる。看取りになった際は、その都度、時々の状態に合わせ、主治医、訪看、ご家族、スタッフと何度も納得が行くまで話し合い利用者様本人にとって一番良い方法を選択し、支援している。（今年度の終末期にはご家族様も泊まり込み看取りをした）	入居時には、重度化した場合の対応や看取りに関する利用者・家族の意向を確認し、共有している。看取り期には、利用者ができる限り穏やかに過ごせるよう、訪問医師、訪問看護師、家族と繰り返し話し合いを行い、最期までその人らしい時間を支えられるよう取り組んでいる。今年度は、家族が泊まり込みで看取りに関わる場面もあり、家族とともに最期の時間を大切にできた一方で、管理者は運営面で改善すべき課題も見出されたとしている。	看取りに際しての家族の関わり方や、職員の心理的負担への配慮について、利用者・家族の意向と事業所の方針をより円滑に共有できるよう、ガイドライン等の整備を検討していくことにより、今後の支援体制がさらに充実していくと考えられます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	訪問看護より、緊急連絡基準表をいただいている。日中から体調が優れない様な利用者様に関しては夜勤者が慌てないように、早めに連絡を入れ指示を受けている。救急対応についてもミーティング等で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、シェイクアウトに参加している。今年度の避難訓練では、通報、消火器の使い方を行いました。	年2回の避難訓練を定期的に実施しており、今年度は設備会社と連携した通報訓練にも取り組んだ。通報時の手順が職員全員に共有されるよう、通報マニュアルを掲示し、緊急時の対応力向上を図っている。大家や近隣住民に見守りの役割を依頼し、訓練に参加してもらうことで、地域ぐるみの防災意識の向上につなげている。また、前回の外部評価を踏まえて目標達成計画を策定し、薄暮時に夜間を想定した避難訓練を実施した。これにより、昼間の訓練では把握できなかった課題を確認することができ、現在その解決策について検討を進めている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの尊重、個々を理解しその方に合った声掛けを行っている。トイレ、入浴時の声掛けについては羞恥心に配慮している。	事業所では「利用者の権利を擁護し、礼節と尊敬をもって接すること」を運営方針として掲げている。集団での活動時にも、職員は利用者一人ひとりの様子に目を配り、安心して参加できるよう、理解しやすい声かけを心がけている。また、尊厳を損なわずプライバシーを確保するため、年1回勉強会を実施し、利用者の意思を優先する支援方法について職員間で検討を重ねている。こうした取り組みを通じて、個々の利用者の尊重とプライバシー確保を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の気持ちを尊重し、思いを伝えやすい雰囲気を作っている。レクリエーションでも、その方の好きな色、デザインを選んでいただいている。なかなか選べない方には、完成品から、クローズドクエッションを用いて選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	居室でテレビを観たり、塗り絵や読書をし、自分のペースで過ごされたり、リビングで週刊誌に目を通したり、新聞や広告を見たりとご本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容を利用し、ご本人の希望のヘアスタイルにしてもらっている。洋服の購入もスタッフ同行で自分で選び購入している。行事の時には、いつもにも増しおしゃれができるよう支援している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日には、ご本人のご希望のメニューの提供、行事には、手作りデザートや、お寿司屋さんのお寿司を提供。お正月には、おせちなど季節の食事を提供している。(ミキサー食の方へも同じように作っている)力のない方には、軽い食器を使用していただいている。干し柿作りも一緒に行った。	献立は、利用者と一緒に注文チラシを見ながら希望を聞き取り、食べたいものを反映して立てている。調理は職員が担当しているが、テーブル拭きや下膳、食器拭きなど、可能な範囲の作業は利用者も参加し、食事づくりの一部を担っている。誕生日には本人の希望を聞き、好みに合わせたメニューを提供している。正月には多くの利用者から希望のあった餅を、大きさや見守りに配慮しながら安全に提供した。ミキサー食の利用者は事業所全体で6名おり、通常食と同じ食材を使用して調理し、できる限り同じ食事を楽しめるよう工夫している。また、職員も利用者と同席し同じ食事をとることで、食事中の様子を観察しながら、安心して楽しく過ごせる雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事提供料を、10とし食事量、水分量をスタッフみんなが分かりやすくチャートへ記入している。(時には、内容も記入している。)状態や、体調に応じミキサー食、おかゆの提供はいつでも行えるようにしている。医師や看護師への報告で利用者様の病気の発見にもつながった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、その方の状態に応じ口腔スポンジや、口腔ウエットティッシュを使いケアを行っている。訪問歯科への定期受診をしている方もいる。訪問歯科検診を全員行った。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様の様子を、日々観察することで排泄パターンを知り、トイレ利用を促しオムツやリハビリパンツ、パッドの使用削減に努めている。(個々の排泄時間を記録し共有)	寝たきりの利用者を除き、トイレで排泄が可能な利用者については、個々の排泄パターンを把握し、リハビリパンツやパッドが汚れる前に適切なタイミングでトイレ誘導を行っている。誘導時の声かけは羞恥心に配慮し、安心して応じられるよう丁寧に行っている。また、トイレまでの動線には手すりを設置し、一人でも安全に移動できる環境を整えている。こうした取り組みにより、利用者の尊厳を守りながら、可能な限り自立した排泄が継続できるよう支援している。	

[評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

令和 7 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	規則正しい生活に心がけると共に排便チェック表を作り目安にし水分摂取の促しもしている。ヨーグルトの提供、食事メニューにも工夫をしている。体操をしたり体を動かす取り組みもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴は職員とのコミュニケーションの取れる場ともなっている。利用者様の体調、重度化している方へは職員二人体制にし、安心、安全を考慮し支援している。	入浴は週2、3回、午後の時間帯としている。多くの利用者は見守りや一部介助で入浴を楽しんでいるが、2名の職員による介助が必要な利用者や、清拭で対応している利用者もいる。利用者が入浴を楽しめるよう、柚子湯や各種温泉タイプの入浴剤を取り入れるなど、季節感や変化を感じる工夫を行っている。入浴を拒否する利用者はおらず、入浴時の職員とのコミュニケーションの中で、これまで聞かれなかった話題が出ることもあり、その内容を記録し日々の支援に活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中も、居室で休まれたり、個々の生活習慣に合わせて支援している。（年齢も考慮し、休息の促しも行っている。）		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬の説明書をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。内服時は、スタッフ間で確認し合い誤薬の無いように支援している。（薬剤師さんとも連携を密に行っている。）		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物たたみ、新聞たたみを一緒に行っている。個々の希望をできるだけ叶え、コーヒー、ジュース、おはぎ、マンゴープリンなど好みのもので気分転換していただいている。手先の器用な方は、レクでスタッフと一緒に季節ごとの壁飾りを制作している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族と、お墓参りに行き、おやつを食べて来たりスタッフとショッピングモールへ行き買い物や食事を楽しんでいる。近所の公園での町内会の納涼祭へも参加している。	桜の季節には、近くの公園や美術館への散歩、小岩井農場へのドライブなど、季節を感じられる外出を実施している。職員とショッピングモールに出かけ、買い物を楽しんだり、フードコートで好みの食事を選ぶなど、利用者の希望に応じた外出の機会も設けている。近隣の衣料品店へは車椅子で買い物に出かけることもあり、必要に応じて個別の外出支援を行っている。また、家族の送迎で友人とコンサートに出かける利用者や、家族が近くに住む利用者が家族と散歩に出かける機会もあり、家族や友人とのつながりを大切にした支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々で現金は持たせていないが、預かってはいる方もいるため、皆で外出した際には、好きな物を食べたり、買い物をしたり、職員が付き添い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望する方には、スタッフが電話をかけ自由に話していただいている。LINEで、顔を見ていただいて話をしていただけるように遠方の方には進めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室にエアコンを導入した事で、温度調整が直ぐにでき快適に過ごしていただいている。季節行事等の飾りも、利用者様と制作リビングに飾り、季節を感じられる様にしている。	食堂兼リビングホールには食卓テーブル、ソファ、テレビを配置し、ゆったりと過ごせる明るい空間となっている。現在は、利用者と共に制作した「みずきだんご」が飾られ、季節感を感じられる工夫がされている。また、季節行事に合わせた飾りも利用者と一緒に制作しており、共用空間に彩りを添えている。リビングでは、週刊誌や新聞、広告チラシに目を通しながら思い思いに過ごすなど、利用者がくつろげる居心地のよい環境づくりに努めている。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： 岩手高齢協 ほっともとみや （2F）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングには食席の他にソファを置き好きな様にくつろいでいただいている。居室でテレビを観たりして休むことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の写真を沢山飾られたり、レクで作成した物を飾っている方もいる。ご本人が使い易く、安全に過ごせるように居室環境を整えている。	居室にはベッド、クローゼット、棚、蓄熱暖房機、エアコンを備えており、室温が適切に保たれる快適な環境となっている。利用者は使い慣れた私物を持ち込み、自分の好みに合わせて配置することで、落ち着いて過ごせる居室づくりができている。また、個人名の表示を希望しない利用者には、その意向に沿った対応を行っている。利用者は居室でテレビやラジオを楽しんだり、塗り絵や読書をしたりと、自分のペースで過ごすことができ、安心してくつろげる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車いすで自由に動かれている方もいる。歩行が危うい方が多いので2階階段降り口に転落防止のため、スライド式の柵を作っていただいた。杖をつき、手すりにつかまり居室からリビングまで歩いて来られる方も安全な様に見守りながら支援している。		